

地域医療研修につなぐ 当院での医師の学生実習

富山県・射水市民病院長 島多勝夫

射水市民病院の概要

当院は富山市と高岡市の間位置し、富山大学附属病院とは最も近い公立病院である（写真）。射水市自体は地理的には富山県の中心に位置し、約9万4,000人の人口を有する県下第3の市町村の一つであり、当院は射水市の北側に立地している（図1）。

病床数は199床（一般195床、結核病床4床）であり、その内訳は急性期病床100床、地域包括ケア病床99床である。診療科は内科、循環器内科、外科、整形外科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、歯科口腔外科、放射線科、麻酔科の計14科を設置し、常勤医師数は20名である。

また、「患者個人の尊重」「最適な医療提供」「地域への貢献」の3つの基本方針のもと、「地域住民から最も信頼され親しまれる、創意工夫とチームワークにより特色ある医療を展開し常に進歩する病院になる」という展望を持ち、地域医療・救急医療を担い、地域住民の生命と健康を守るという使命感のもと、全職員が一丸となって診療に勤しんでいる。

平成29年、耐震化に伴う外来診療棟新築により、新診療棟1階に関しては外来診察や患者待合スペースの拡充が図られ、患者待ち時間をゆったりと使える診察順番の掲示や診察順番を掲示したモニターを設置した院内シアターを完備し、新診療棟2階はリハビリテーション室・健康管理センター室・内視鏡室・透析室・外来化学療法室を効果的に配置し、患者にとってゆったりとしたスペースの提供を心掛けている。また、手術室や人工透析センターなどを整備し、がん・急性心筋梗塞・外傷・血液透析などのさまざまな場面で急性期医療に取り組んでいる。



写真 射水市民病院外観

図1 射水市の地理的位置



当院の救急医療体制は1次から2次にかけての救急患者を24時間体制で極力受け入れており、HCU3床を備えた上で常時緊急入院に対応可能な救急室を整備している。平日日中は救急当番制を配置し、初期診療を行い、専門的治療が必要な場合には当該科への引継ぎを行っている。夜間休日は1名の医師が、また2次救急当番日（当院が参入している高岡医療圏の2次輪番制での毎月の当番日のこと）には外科系/内科系それぞれ1名が各科バックアップ体制の下で初期治療に当たっている。

ちなみに2018年度における救急患者総数は2,922名、

救急車の受け入れ台数は984件であり、加えて災害対策として消防訓練を年2回、夜間訓練も想定して行っている。予防医学の面では健康診断や人間ドック・脳ドックに対応する健診センターを設置し、地域住民への検診の重要性を啓発しつつ、職域も含めた多様化する住民検診に対応している。

また、脳卒中後、整形外科や外科術後のリハビリ・心リハも含めたりハビリテーション科を設置しており、患者の多様なニーズに対応可能なリハビリテーションの提供を行っている。特に心リハに関しては7名の心リハ認定資格を有した理学療法士が在籍し、2018年度の年間延人数107名/延べ件数2,864件の心血管疾患治療後の患者に対応している。

地域包括ケア病棟整備における 地域密着型医療体制への取り組み

当院では平成26年9月より急性期病棟1棟を地域包括ケア病棟に移行し、平成29年4月からは地域包括ケア病棟を2病棟/急性期病棟を2病棟体制に大きく変更した上で、将来像として急性期医療のみならず、在宅医療を意識した地域密着型ケアミックス病院を目指している。

平成29年より射水市在宅医療・介護連携推進協議会が開催され、定期的に多職種連携のワーキンググループを設置し、当院の地域連携看護師や歯科医が同ワーキングに参加・介入しながら、認知症初期集中支援など在宅医療や介護医療連携を率先して推進している。平成10年10月より開業医から依頼のもと、オープンベッドとして開放型病床の導入を始めた経緯があり、現在でも継続している。昨年は45件/年同ベッドを使用している（内科20件/整形外科23件/外科2件）。

当院での学生実習

1. 実習プログラムと学生実習生の推移

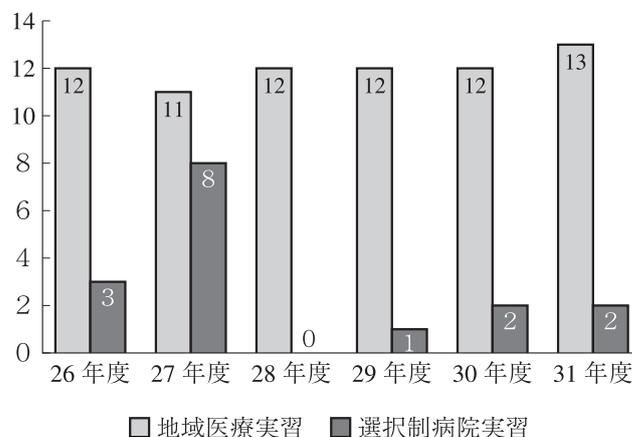
当院は富山大学と緊密に連携し、臨床現場における実技を加味した基本的診療能力の向上を図ることを基本方針として臨床実習を医学部4年次より開始するとともに学生実習生を受け入れている（図2）。

臨床実習は初期臨床研修前の診療に関する実技の取

図2 富山大学の医療教育カリキュラム



図3 当院での地域医療実習生の推移



得としての意味合いが強く、今後は地域医療研修の重要性と相俟って時間配分の増加も予想される。本実習は医学部4/5年次の地域医療実習と医学部5/6年次の選択制臨床実習に分けられ、過去数年間の各年度別の臨床実習生の推移では、年間の地域医療実習生数/選択制臨床実習生数がそれぞれ最大13名/3名を受け入れている状況である（図3）。

2. 地域医療実習

医学部4/5年次の地域医療実習は、富山大学医学生を中心として近県を含めた関連9病院を対象に、全部で20グループ前後に分けて地域の医療機関に赴き、実施している。地域医療実習の実施期間は月曜日から金曜日までの5日間で、心カテ・救急・透析・外科系手術を含めた急性期医療のみならず、予防医学・遠隔医療・訪問診療を中心とした在宅医療の現状を患者目線で捉え、多職種連携で対応する地域医療のあり方を

表1 射水市民病院地域医療実習の週間日程表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	1 8:30 朝礼 9:00-10:00 オリエンテーション (担当: 医師) 病院説明 (担当: 事務局) 10:30-11:30 講義 -医療の動向と地域医療等- (担当: 院長) -会議室-	2 8:30 朝礼 9:00-11:00 人工透析 (担当: 医師) -人工透析センター-	3 8:30 朝礼 9:00-11:00 生理検査 (担当: MT) -中央検査室-	4 8:30 朝礼 9:00-11:00 上部消化管内視鏡 (担当: 医師) -内視鏡室-	5 8:30 朝礼 9:00-9:30 遠隔医療 (担当: 医師) 10:00-11:00 IMI ZUNO-HOME 禁煙外来・健診 (担当: 医師)
昼休	12:00-13:30	12:00-13:30	12:00-13:30	12:00-13:30	12:00-13:00
午後	13:30-15:45 心臓リハビリテーション 体験学習 (担当: PT) -心リハ室-	13:30-15:00 下部消化管内視鏡 (担当: 医師) -内視鏡室- 15:00-16:00 臨床英会話 (担当: 国際交流員) -経営管理課会議室-	13:30-16:00 在宅訪問診療 (担当: 医師)	13:30-16:00 外科手術見学 (担当: 医師) -手術室- 17:00 Drug Information -3階病棟-	13:00-13:30 ほたるいかカンファレンス 13:30-16:00 外来診療 (担当: 医師) -内科外来- 17:00 反省会

表2 射水市民病院選択制臨床実習の週間日程表

診療科名: 内科 日程: 第1週～第3週
 診療科名: 外科 日程: 第4週～第5週
 診療科名: 整形外科 日程: 第6週～第7週

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科	オリエンテーション 患者紹介	9:00- 病棟業務	9:00- 外来診療	9:00- 病棟業務	9:00- 外来診療 禁煙外来・ドック
	13:30- 内視鏡CF 16:00-17:00 症例検討会	13:30- 心カテ見学	13:30- 訪問診療 14:00- 新患CC、内科総回診 ベッドサイド・症例検討	13:30- 心カテ見学 17:00- Drug information	13:30- 心リハ 16:00- CABLE
外科	オリエンテーション 患者紹介	9:00- 病棟業務	9:00- 外来診療	9:00- 病棟業務	9:00- 病棟業務
	13:30- 手術見学(大腸鏡・ERCP)	13:30- 手術見学(大腸鏡・ERCP)	13:30- 部長回診、消化器CT MRI画像診断、手術	13:30- 手術見学(大腸鏡・ERCP) 検討会	13:30- 手術見学、HCUリカバリ 16:00- CABLE
整形外科	オリエンテーション 患者紹介	9:00- 外来診療	9:00- 病棟回診	9:00- 外来、リハビリ実習	9:00- 病棟回診 リハビリカンファレンス
	13:30- 手術見学	13:30- 手術見学	13:30- 股関節エコー 整形外科CT MRI画像診断	13:30- 手術見学 17:00-17:30 Drug information	13:30- 手術見学 16:00- CABLE

実感してもらうための独自の週間プログラムを作成している(表1)。

3. 選択制臨床実習

医学部5/6年次の選択制臨床実習では、卒後の臨床研修につなぐ地域医療実習と捉え、少しでも臨床を実感していただけるように各診療科の指導医や専門医より外来診療・訪問診療・病棟業務のそれぞれの場面で、診断として内視鏡検査・心臓血管造影CTなどにより病期診断を行いつつ、治療としてPCIを含めた心臓カテーテル治療・心血管疾患治療後の心臓リハビリテーション・内視鏡治療・外科および整形外科手術と術後管理としてのリハビリテーション治療など、直接実践を交えて家庭的な雰囲気のもと、マンツーマンで教育

を受けることができるいい機会であると考えている。

ちなみに実習期間は7~8週と約2か月間に及ぶが、初期臨床研修医前段階の模擬体験としては大変有意義であり、多職種での連携やコミュニケーションの重要性を実感できる大切なひとときであるとともに、地域医療のあり方を少しでも理解し、医師としての医療提供の実行性を共有してほしいと考えている(表2)。

4. 研修環境

学生実習生の部屋はオープンフロア式の医局に接しており、実習生だけのスペースを確保しつつ、各診療科の上級医に何でも気軽にコンサルトしやすい環境となっている。当院の指導医・専門医・上級医は皆優しく、ときには熱意をもって指導してくれる先生が多く、

アットホームな雰囲気の良い医局である。また、院外活動として各診療科の研修会、研究会や勉強会などへの参加なども希望があれば自由に選択可能であり、専門的知識の理解にもつながるものと考えている。

5. 今後の課題

医師として必要な診療技術を修得するためには、医学部4～6年次の臨床実習において適切な指導医の下、診療に関する実技を経験する必要がある。診療参加型臨床実習の推進が求められている。制度としての初期臨床研修や医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂により、学外の医療機関での地域医療実習の重要性や診療参加型の実習時間のさらなる確保が謳われ、学生時より医療技術の習得と患者のみならず、多職種とのコミュニケーション能力の向上も必要とされている。それを確保するためには、さらなる学生実習の受け入れや実習時間の増加が必要となるが、当院においては日常診療で多忙な指導医・専門医等への負担が増大することが懸念され、効率的な実習プログラムや受け入れ体制の確立が必要である。本実習が卒後臨床研修への橋渡しとなり、特に若手医師の地域偏在解消に帰することを心より祈念している。

学生実習修了者からのコメント



地域医療の実習を終えて

医学部4年生

青山彩香

実習が始まった頃はまだまだ知識も浅く質問にもほとんど答えられなかったが、優しく教えていただき感謝の気持ちで一杯であるとともに、大学病院では経験できない独自の地域実習を体験できたことは有意義であった。

心リハでは、実体験により運動不足の解消するきつ

かけになるとともに、今では具体的なリハビリテーションの立て方や筋肉などへの興味が強くなった。生理検査では、医師との連携を円滑にさせるための工夫や気遣いを実感した。消化管内視鏡検査では、手際よく内視鏡を扱う先生のスピードに大変驚かされた。

外科手術では初めてガウンを着た上で、外科・整形外科などの先生の職人技を間近で見ることができ、とても感銘を受けた。遠隔医療では、最先端である遠隔医療をリードする病院が富山の射水市民病院であってほしいと思うと同時に、これからの超高齢化社会について考えることができた。訪問診療では、なぜ今訪問診療が必要なのか、社会を背景に深く考えることができた。外来見学では、見学だけではなく、考えながら診察させていただいたことに大変感謝している。禁煙外来では、いかに患者さんのやる気を作るのか、先生の温かいご指導が大変参考になった。

今回の学生実習プログラムを行う中で、看護師の皆様、事務局の皆様を始め、病院に携わるさまざまな皆様のおかげで一週間という短い時間ではあったが大変充実した医療実習となった。心より感謝しているとともに、また時間がある時にご指導いただけると本当にうれしい。



選択制臨床実習を終えて

医学部5年生

一色亮祐

外来診療、病棟回診、手術、訪問診療、検査見学、リハビリ見学など多くの場に参加させていただき、大変貴重な経験をすることが出来た。また、病院で働かれている先生やスタッフの方すべてが優しく丁寧にご指導して下さい、本当に楽しい実りある実習であった。射水市民病院で研修して特に印象的だったのは、先生方が患者さんの幸せを真剣に考え、真摯に医療に取り組んでおられることである。先生方のような患者さんから信頼してもらえる医師になれるよう、一生懸命勉強に励みたいと思う。本当にありがとうございました。